

まちべん

コロナ時代の豊田市の暮らしに ついて ～都市と交通の観点から～

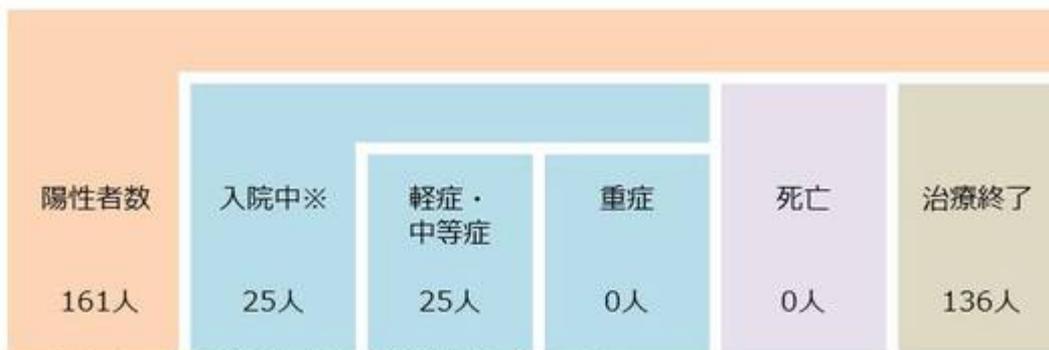
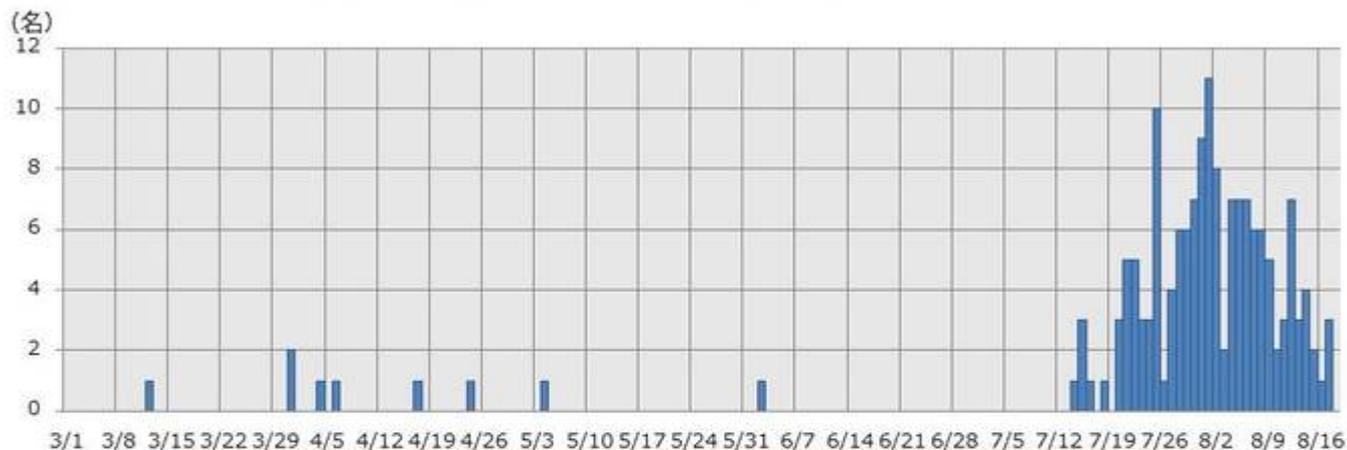
公益財団法人豊田都市交通研究所

新型コロナウイルスに関する国内の主な出来事

日付	主な出来事
1/16	日本国内で初めて感染確認
2/13	国内で初めて感染者死亡 神奈川県に住む80代女性
2/27	安倍首相 全国すべての小中高校に臨時休校要請の考え公表
4/7	7都府県に緊急事態宣言
4/16	「緊急事態宣言」全国に拡大 13都道府県は「特定警戒都道府県」に
5/4	政府「緊急事態宣言」5月31日まで延長
5/14	政府 緊急事態宣言 39県で解除 8都道府県は継続
5/25	緊急事態の解除宣言 約1か月半ぶりに全国で解除
6/19	都道府県またぐ移動の自粛要請 全国で緩和
7/9	東京都 224人の感染確認 200人超は約3か月ぶり
7/22	「Go Toトラベル」キャンペーン始まる
7/29	国内の1日の感染者 1,000人超 岩手で初確認
8/6	愛知県独自の緊急事態宣言発出

豊田市での新型コロナウイルス陽性者について

検査陽性者の発生件数
(令和2年3月1日～令和2年8月18日)



※入院中には入院調整中及び宿泊療養を含みます。

豊田市新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン

コロナ警戒レベル	レベルの目安 (直近1週間の市内の新規感染者数)	市民のみなさまへの 周知・広報	市役所	小学校・中学校 特別支援学校	こども園	公共施設
警戒レベル 1 県内で感染者発生	0人	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活様式の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活様式の実践・啓発 ●感染情報の収集・広報 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活様式の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活様式の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活様式の実践
警戒レベル 2 市内で感染者発生	1～3人	感染注意情報発令 <ul style="list-style-type: none"> ●感染情報の提供、注意喚起 ●公共施設の開館・休館情報、イベント情報等の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●注意喚起 ●感染情報の収集・広報 	<ul style="list-style-type: none"> ●注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ●注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ●注意喚起
	市役所、小・中・特別支援学校、こども園、公共施設で発生	感染注意情報発令 <ul style="list-style-type: none"> ●感染情報の提供、注意喚起 ●公共施設の開館・休館情報、イベント情報等の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●庁舎閉鎖の範囲・期間等を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当校休校（原則3日間。4日目以降は感染状況により決定） 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当園休園（原則2週間） 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当施設休館の範囲・期間等を決定
警戒レベル 3 市内で一定規模の感染者発生	4～8人	感染警戒情報発令 <ul style="list-style-type: none"> ●感染情報の提供、注意喚起の強化 ●公共施設の開館・休館情報、イベント情報等の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●庁舎閉鎖と業務縮小の範囲・期間等を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当校休校（原則3日間。4日目以降は感染状況により決定） ●該当校以外の休校の有無・範囲・期間等を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当園休園（原則2週間） ●該当園以外の休園の有無・範囲・期間等を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当施設休館の範囲・期間等を決定 ●該当施設以外の休館の有無・範囲・期間等を決定
警戒レベル 4 市内で感染まん延	9人以上	感染嚴重警戒情報発令 <ul style="list-style-type: none"> ●感染情報の提供、注意喚起の更なる強化 ●公共施設の開館・休館情報、イベント情報等の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●庁舎閉鎖と業務縮小・休止の範囲・期間等を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当校休校（原則3日間。4日目以降は感染状況により決定） ●該当校以外の休校の有無・範囲・期間等を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当園休園（原則2週間） ●該当園以外の休園の有無・範囲・期間等を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染状況の把握 ●該当施設休館の範囲・期間等を決定 ●該当施設以外の休館の有無・範囲・期間等を決定

※国県の「緊急事態宣言」が発令された場合は、コロナ警戒レベルに関わらず、豊田市新型コロナウイルス感染症対策本部での決定又は当該本部の本部長指示により対応する。

※コロナ警戒レベルの移行及び具体的な対応内容等は、感染事例ごとの発生状況等を踏まえて、豊田市新型コロナウイルス感染症対策本部にて総合的に判断して決定する。

※市役所内各部門又は各施設における対応は、上記ガイドラインのほか、豊田市新型インフルエンザ等対策行動計画、豊田市新型インフルエンザ等対策庁内対応マニュアル（業務継続計画を含む）等に基づき実施する。

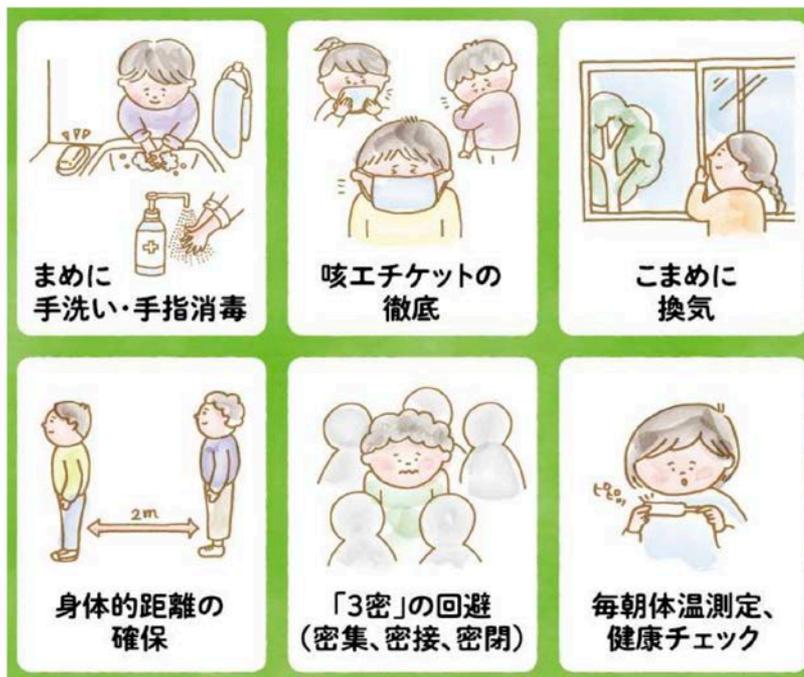
資料：豊田市HP

新しい生活様式

私はあなた、あなたは私

自分のために、みんなのために、できることから始めよう！

新しい生活様式の実践例

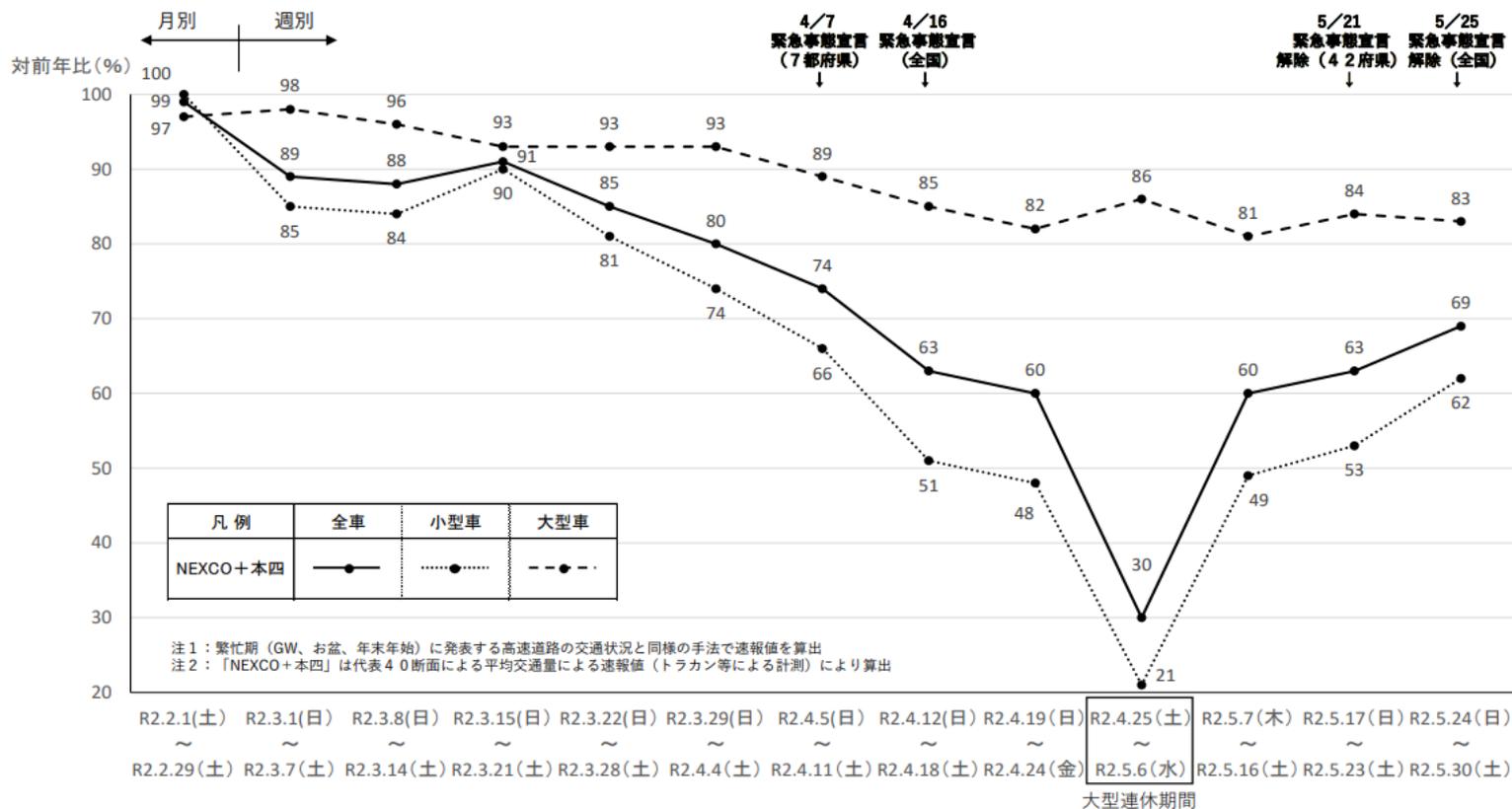


資料：豊田市HP

交通への影響

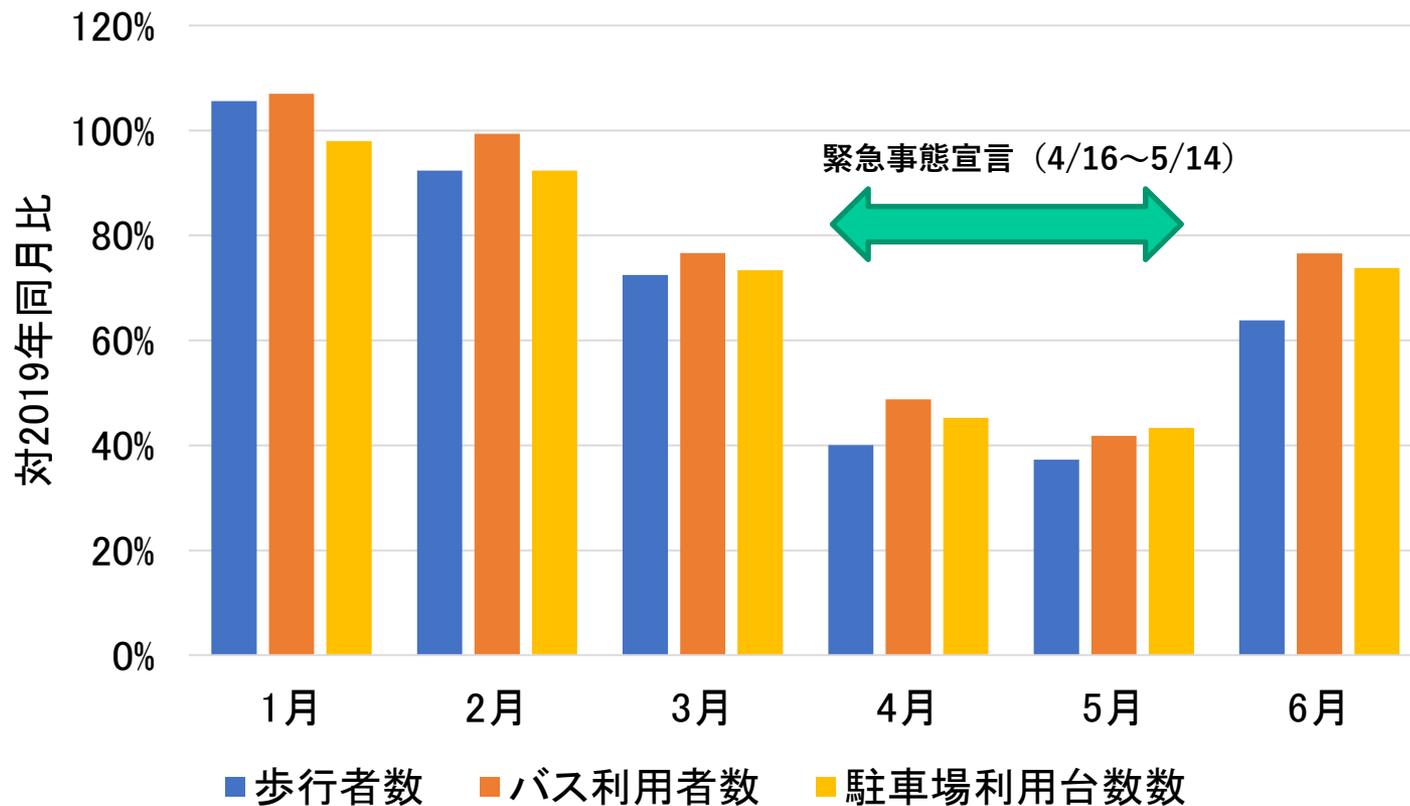
図表 1-1-4 全国の高速道路の主な区間の交通量増減の推移（対前年比）

全国の高速道路の主な区間の交通量増減（対前年比）



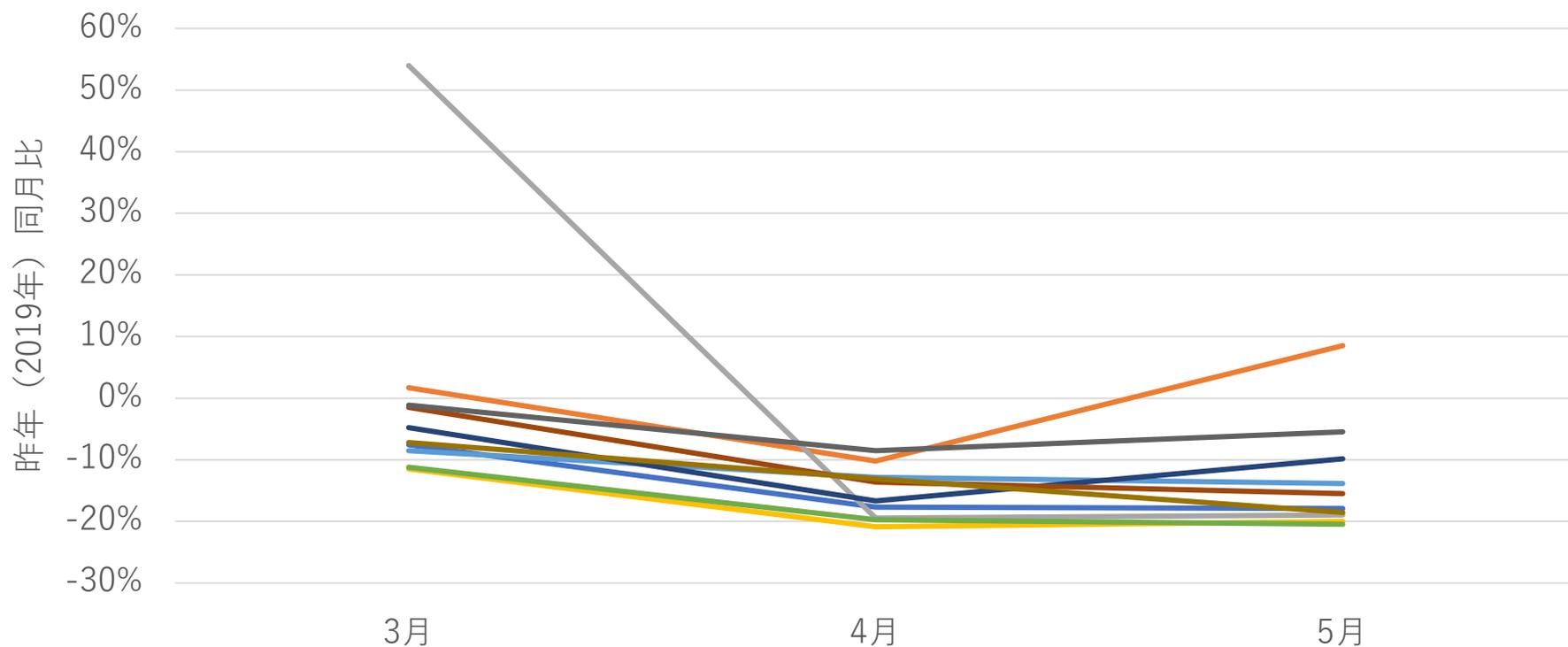
資料) 国土交通省

豊田市の交通



データ	概要
歩行者数 (パロツシー)	画像解析型センサー(パロツシー)により自動計測した歩行者通行量。豊田市都心の20箇所に設置されている。全調査地点の合計値を使用。
バス利用者数 (おいでんバス)	豊田市内外の主要拠点を連絡する基幹バス全路線の利用者数を使用。
駐車場利用台数 (フリーパーキング)	豊田市都心の駐車料金が3~5時間無料になるフリーパーキング制度に加盟する17駐車場の利用台数を使用。

豊田市の交通（主要幹線道路の断面交通量変動）



- 国道248号南行トヨタ町
- 国道155号南行神田町
- 国道248号南行挙母町南北
- 国道155号西行御幸町
- 国道153号南西行香嵐溪東
- 主要地方道豊田安城線南行曙町2丁目
- 国道153号西行挙母町西
- 県道豊田東郷線西行小坂町
- 国道153号南西行香嵐溪西
- 国道419号南行四郷町与茂田

資料：日本道路交通情報センター、※1分間交通量を5分ごとに計測したものから算定、※一部、データ不具合の予測された箇所は掲載していない

取り組みの概要

- ・ 新型コロナウイルスは、私たちの暮らしを大きく変えようとしている
 - ・ このウイルスが今後、どのような形で終息していくのか見えない中で、この影響は豊田市に暮らす私たちに短期的なものにとどまらず、中長期的に思いもよらない影響を与える可能性も
- このコロナ禍により将来起こりうる都市交通への影響を予想し、「交通」の持つ意義も見据えながら、中長期的に取り組むべきことを考えていく

取り組みの概要

個人の行動

- 感染の過度の恐れ
- 感染者への偏見・差別

短期的視点 (何が起こった?)

外出(交通の発生)

- 健康面での影響(高齢者)
- テレワークの普及
- ヒトからモノの移動へ

移動(経路や手段)

- 公共交通利用の減少
- 自動車・自転車交通の増加

都市の在り方

- 働く・学ぶ場の変化
- 空間の使い方(密を避ける)

中長期的視点 (どう考えていくべきか)

社会の在り方

- コミュニティの喪失
- 経済活動の停滞
- 不確実性の高い社会

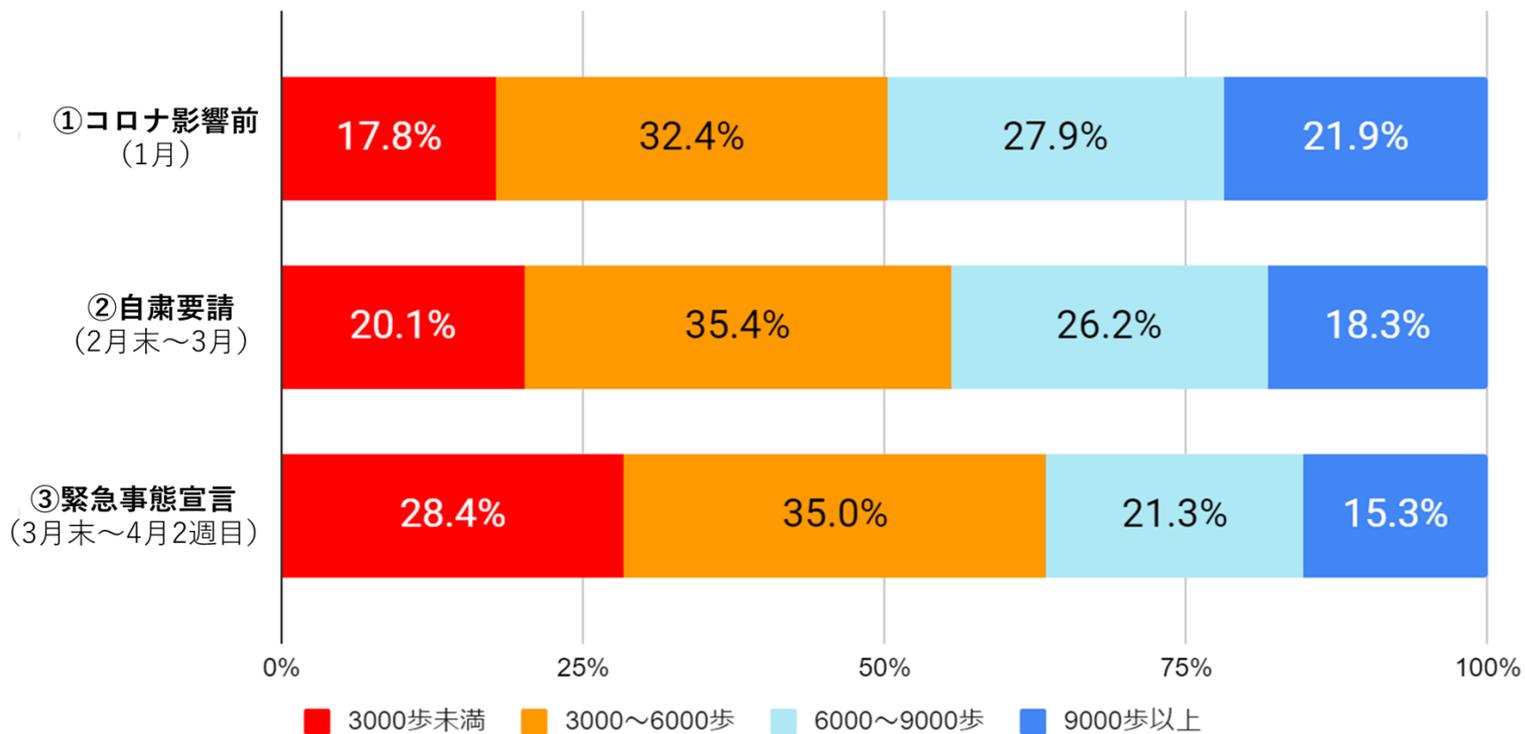
外出のあり方

外出ができなくても生活できる社会のあり方、外出することの価値を再考する必要があります。

- ・ コロナ禍により、外出が自粛
- ・ **外出の減少**は、新型コロナウイルスへの感染リスクを下げ一方、運動不足による**健康面での影響**、**コミュニティの喪失**などが懸念
- ・ 外出自粛により、**人の移動をモノの移動で代替**する機会が多くなり、これらの変化に対応した整備も課題
- ・ コロナ禍の今、**外出しない、対面でのコミュニティが無い**ことによる影響を踏まえながら、**人が外出することの価値を再考することが必要**

コロナ禍で起こったこと・起こること		あり方
起こったこと	起こること	
外出自粛	外出の減少による、健康面での影響、コミュニティの衰退	外出減少時の健康・コミュニティを考える
宅配需要の増加	需要超過による宅配システムの不安定化、信頼性低下	人の移動からモノの移動への変化を考える
外出自粛	「外出」が選ばれない社会	外出することの価値を再考

外出減少時の健康・コミュニティを考える



歩数の分布の変化 (n= 27,018人)

資料：株式会社リンクアンドコミュニケーション：歩数の分布の変化
<https://www.linkncom.co.jp/news/press/295/>

外出減少時の健康・コミュニティを考える

表5 外出頻度と要介護移行率

外出頻度	自立維持	要介護移行率	検定*, p 値
毎日1回以上 (1,156人)	1,038 (89.8%)	118 (10.2%)	0.171
2, 3日に1回程度 (736人)	646 (87.8%)	90 (12.2%)	
1週間に1回程度 (94人)	70 (74.5%)	24 (25.5%)	0.000
ほとんど外出しない (60人)	32 (53.3%)	28 (46.7%)	0.000
全体 (2,046人)	1,786 (87.3%)	260 (12.7%)	2, 3日に1回程度対

* : χ^2 検定, 2, 3日に1回程度との比較

資料：渡辺美鈴・渡辺丈眞・松浦尊磨・河村圭子・河野公一：自立生活の在宅高齢者の閉じこもりによる要介護の発生状況について

移動のあり方

持続可能な移動を確保するため、公共交通システムの維持や、非接触型モビリティの活用を考える必要があります。

- ・コロナ禍により、テレワーク、WEB会議が普及し**人々の移動量が減少**
- ・不特定多数との接触を避けるため**公共交通機関の利用を控え、自動車などの非接触型モビリティの利用に転換**する動きも
- ・このような動きが長期化した場合、**公共交通事業者の収益悪化**を招き、事業の継続が不可能となる恐れ

→公共交通の安全な運行・利用方法や、公共交通の維持のための方策を考えつつ、**非接触型モビリティへのニーズの高まり**を踏まえた対応が重要

コロナ禍で起こったこと・起こること		あり方
起こったこと	起こること	
<ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク・WEB会議の普及 ・移動量の減少 ・自動車・自転車への交通手段の転換 	公共交通の崩壊	公共交通の安全な運行・利用
		公共交通の維持
	非接触型モビリティへのニーズの高まり	自転車の活用
		自動運転車の活用
		カーシェアリングの活用

移動：公共交通の安全な運行・利用

外出が必要な方のために運行を続けています

お客様の安全・安心のための取り組みを行っています

マスクの着用・健康管理
窓開けによる換気
定期的な清掃・消毒

マスクの着用をお願いします
会話を控えるようお願いします
ソーシャル・ディスタンス
なるべく間隔を空けて乗車下さい

感染拡大を防止するためにご協力をお願いします

資料：車内掲示用ポスター
(くらしの足をなくさない！交通崩壊を止める緊急フォーラム運営委員会)

- 既に実施されている感染症対策（乗務員のマスク着用・体調チェック、窓開けによる換気、定期的な清掃・消毒など）について、利用者にPRすることが重要。例えば、「くらしの足をなくさない！運営委員会」が用意している車内掲示用ポスターを活用するのも有効

当社「バスロケーションシステム」でスマートフォンからパソコンから混雑状況を確認いただけます。

■ 後続バスの状況もご確認いただけます。

空いている (乗車率:概ね30%以下) やや混んでいる (乗車率:概ね31~60%) 混んでいる (乗車率:概ね61%以上)

じょうてつ コロナ感染症予防対策の取組とお願い。

車内の換気を徹底しています。
運行車輛は消毒を行っています。

車内ではマスク着用にご協力ください。
感染症の拡大を防ぎましょう

※社会情勢の状況を鑑みて、ダイヤの変更や一部運休する場合がございます。お出かけ前に今一度ご自身で運行状況をご確認ください。

じょうてつ

資料：じょうてつバス ポスター

- じょうてつバスでは、スマートフォンやパソコンから確認できる「バスロケーションシステム」で混雑状況も確認できる

移動：公共交通の維持

オフピークで
快適通勤
 キャンペーン
 対象条件を満たした方に

プレゼント①
 もれなく
 JRE POINT
5ポイント

プレゼント②
 JRE POINT
10,000ポイント
 抽選で**300**名様

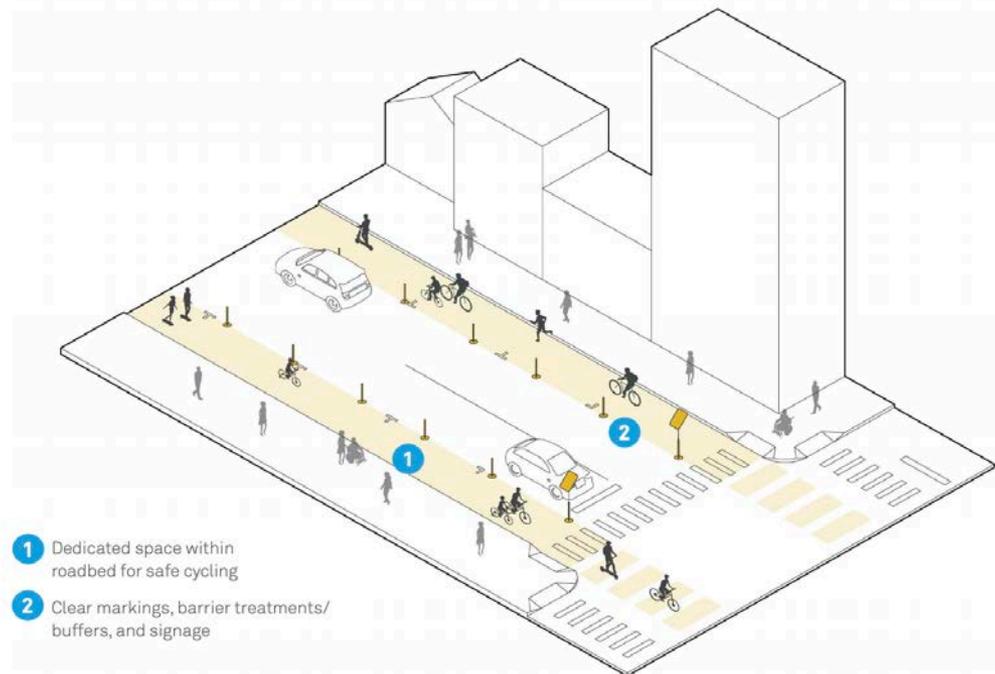
資料：JR東日本 オフピーク通勤キャンペーンのポスター

- ・豊田市では中長期的にも、コロナ禍を契機としたテレワーク・WEB会議の普及により、鉄道・バス利用者が減少することが予想。
- ・地域のインフラとして公共交通を維持していくためには、「利用されつづける」ことが不可欠であり、密回避を前提としながらも新たな需要を喚起することも重要。
- ・JR東日本などではオフピーク通勤のキャンペーンを実施したり、時間帯別運賃の検討を始めている。

移動：自転車の活用



資料：NACTO : Streets for Pandemic Response & Recovery, 2020.5.21



- ・非接触型のモビリティとして自転車へのニーズの高まりを受け、**より安全かつ快適に利用しやすい自転車走行空間の整備**を推進していくことが求められる。
- ・海外では、自動車への転換が進むことを抑制し、自転車利用者の安全性向上を図るため、**簡易的に車道との境界を表示した自転車専用レーンの整備**が柔軟に進展。

都市のあり方

働き方、住まい方、交通手段、くらし方の変化を見据えた、土地利用や都市機能のあり方を考える必要があります。

- ・ コロナ禍により、テレワーク、リモート学習をはじめ「**新たな生活様式**」が浸透
- ・ また、感染を恐れて**公共交通機関の利用を控え、自動車などの利用に転換**したり、**過密となるような場所を避ける**ような動きも懸念
- ・ このような動きが長期化した場合、**私たちの働く場所、住む場所、都市の広がり**に影響を与えることが懸念され、そのあり方を再考する必要

コロナ禍で起こったこと・起こること		あり方
起こったこと	起こること	
テレワーク・リモート学習の普及	居住地域の多様化 (新たな価値観による居住地の発生)	働く・住む場の再考
通勤・通学に関連した派生需要の喪失 (買い物・昼食・飲み会)	市街地の用途変化 (密度の低下)	市街地の再考
・ 公共交通利用の回避 ・ テレワーク・リモート学習の普及	公共交通の衰退・喪失	多核ネットワーク型コンパクトシティの再考
過密となる場の回避	都市の空間の使い方の変化	公共空間の再考

都市のあり方：働く・住む場所の再考

居住環境として求められる空間を把握し、計画的に提供していくべきと考えます。

- ・豊田市は、これまでの都市計画が功を奏し都市機能がコンパクトにまとまっている一方、魅力的な「住まい」や「働く場」が提供できる「丁度よい」ポテンシャルのある地域も多く存在
- ・これまでも、都市に暮らしながら田舎らしさを享受し、反対に田舎に暮らしながら都市で働くなど、都市部と山村部の共生が図られてきた

→豊田市で行ってきた郊外の無秩序な開発を抑制するこれまでの都市計画の用途制限は維持しつつ、多様性のある地域を活かし、例えば、魅力的な「田舎ワーク」を可能にする田園居住区域の設定などで田舎居住を計画すること等、居住環境のニーズを把握した上で、その空間を計画的に提供していくことが重要であると考えます。



資料：山村地域の振興及び都市との共生に関する基本方針

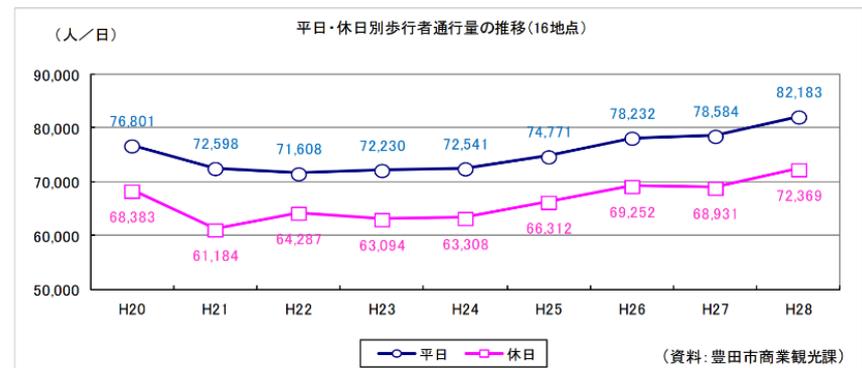
都市のあり方：市街地の再考

今ある市街地の魅力の他にも、新たな市街地の魅力を創出していく必要があると考えます。

- ・ 豊田市の中心市街地は、これまで「自動車産業のまち」として世界に誇る発展をみせてきた一方、平日・休日の歩行者交通量の差からも「通勤・通学」者の需要に支えられている面が強く、テレワーク等の影響を特に受けやすい
- ・ 東郷町・長久手市など市域周辺では大型商業施設が建設されていくなかで、中心市街地の活力を維持していくには、

- (1) 市街地居住をより強力に推進
- (2) 周辺市域にない「魅力」を有する特徴的空間や施設を整備し、新規需要を開拓

など、通勤・通学需要に依拠しない中心市街地のありかたについて抜本的な改革を推し進めていく必要

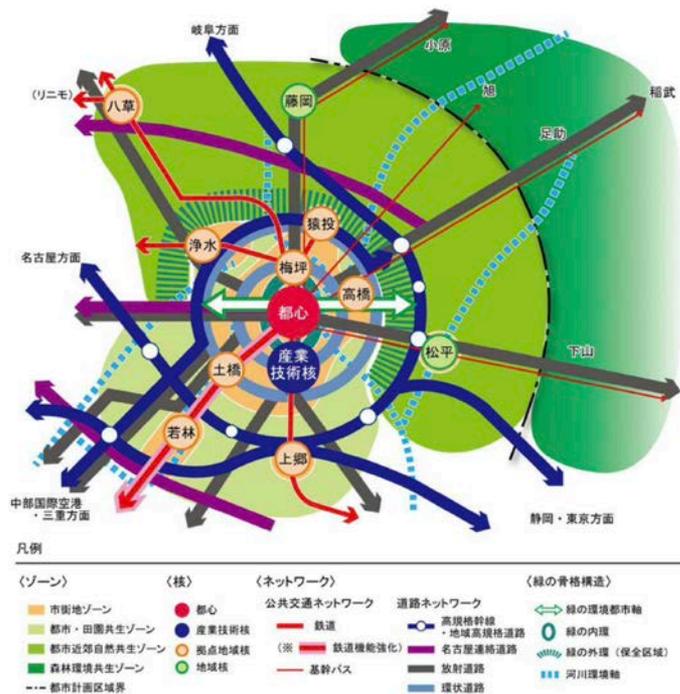


資料：豊田市中心市街地活性化基本計画

都市のあり方：多核ネットワーク型コンパクトシティの再考

ネットワークの強靭性を高めつつ、「拠点（核）」の機能をより高度化する、災禍に強い集約型都市構造の構築を目指すべきと考えます。

- ・ 豊田市は将来の人口減少や高齢化を見据え、多核ネットワーク型都市構造の確立を目指しているが、「3密回避」による公共交通の利用回避や、テレワークの推進による通勤交通・業務交通の縮小は、当該都市構造の前提となるネットワークを支える事業者の事業継続に少なくない影響を与える
- ・ そもそもネットワーク利用のターゲットである「高齢者」は、感染により重症化しやすいということから公共交通の利用を控えざるを得なくなるというジレンマも
- ・ 豊田市の「多核ネットワーク型都市構造の確立」は豊田市のそもそもの将来人口減少や高齢化を前提とした極めて重要な方針
 - 感染防止策に関する情報発信など公共交通の利用者側の「安心感」を高めつつ、公共交通の事業継続計画を検討するなどし、「ネットワーク」の強靭性を高めることが重要
 - 加えて、日常生活においてはネットワーク利用を前提としなくとも徒歩や自転車、セニアカーなどのパーソナル・モビリティなどにより目的を達成できる「拠点（核）」の機能集約を検討していくことも重要



資料：豊田市立地適正化計画

都市のあり方：公共空間の再考

だれもが柔軟に「公共空間」を使えるような仕組みづくりを構築していくべきと考えます。

- ・オープンカフェなどの公共空間の柔軟な活用は、店舗内を含めた密回避が期待できることから**利用者の安心感が高まる**ことが予想されるだけでなく、ハード的側面からも空間の賑わいや多様性を創出し、しいては市街地の魅力を高める都市の装置一つにもなることが期待
- ・**豊田市**においては、「とよしば」のある豊田市駅周辺など、**空間活用のポテンシャルの高いエリア**がありますが、**イベント以外での恒常的な活用はない**
- ・コロナ禍をうけて自治体とTMO（まちづくり組織）が共同してオープンカフェ営業を後押ししている例など、現在の制度的制約をふまえつつ、各店舗が比較的柔軟に公共空間を利用できる取り組みも[※]。
- ・令和2年5月27日に成立した道路法等の一部を改正する法律の中で「**歩行者利便増進道路**」が創設され、占有者を広く公募し、選定者には最長20年の占有が可能となることから、テラス付き飲食店など初期投資の高い施設も参入しやすくなる

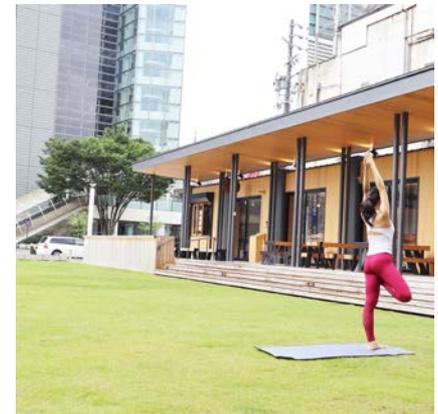
→TMOとの共同のもと、**3密回避と市街地の魅力向上、活性化を同時に達成する柔軟な「公共空間」の使い方の提案と、それを支える仕組みづくりの検討**していくことの重要性が高まる
 (※その際、交通機能などももとの公共空間の目的への影響を勘案し、店舗などの市内事業者の意向をふまえながら議論を進めていくことが重要)

※福井市の事例。オープンカフェの参加費は5,500円（道路占用料等）、道路の利用に必要な届け出は、TMOが一括して実施。期間は6月中旬～来年3月末。参加店に有料で貸し出すテーブルやイス、看板も用意



シカゴのプロードウェイ・ストリートは、駐車場 Credit: NACTO-GDCI
 のレーンをレストランの屋外席として利用し、歩行者のための公共空間へと変貌を遂げています。

資料：Streets for Pandemic Response and Recovery



資料：とよしばfacebook

さいごに

この新型コロナウイルスは私たちに大きな「気付き」を与え、すなわち、

- ・これまでの都市・交通の「前提」はパンデミックにおいて脆弱

→持続可能な、強靱な都市・交通とは何か、真に住み良いまちとは何かを
今一度考える「良い機会」と捉えることが重要

この取り組みはまだ緒についたばかりです。ここで掲げた課題について今後も引き続き、方向性を検討していきます。

本取り組みに関連する調査も企画しています。
ご協力をよろしくお願いいたします。